

特115

764

第四編

農村振興叢書

竹をたがし



始



農村振興叢書刊行趣旨

近時農村振興の聲のみ徒らに高くして具體的に之を實現する方法に至りては未だ必しも完璧を期し難く更に其の方法を一般に廣く徹底する事に至りては蓋現代に於ける一の大なる缺陷である云ふも過言でないと思ふ然らば之を最も通俗的に實際的に普及徹底を期する事は時代の要求に應ずる急務の一たるを失はぬと思はれる本協會此に見る所あり農村振興叢書を刊行し農村に即したる平易普通の事柄を記載し小となし廉價を以て廣く之を頒布し多くの人に讀み且つ行ふことを促進したので此小冊子が農村青年の研究の好同伴となり産業發展の一端に資し以て農村の振興に貢献することを得ば本協會の趣旨得て達せりといふべく之れ即ち本叢書刊行の唯一の目的である

財團
法人 鹿兒島縣社會事業協會

大正
13. 7 16
内交

43/15
764

竹（竹林改良及新植編

附孟宗畑の仕立法）

矢部技師講述

鹿兒島では竹林と名のつく様なものは至つて乏しく。竹藪ばかりだと云ふてもあまり言ひ過ぎてはありますまい。そして竹藪を茶碗のカゲや、硝子カゲ等を、投げこむところの様に心得て居ります。近頃竹林熱が非常に勃興しては來ましたもの、まだ改良の餘地が多いのであります。土地を基にする産業中竹林ほど、手ツ取り早く収入を擧げ、加かも利益の多いものは少いでせう、幸ひ本縣でも奨励金を出して、改良、新植を勧めており、漸次改良の機運に向つて來た様であります、一層その完成を計りたいと思ひます。

竹（抱節君、君子、瀟洒侯、青士、此君）は東洋の特産で、西は支那、印度から東は我國に限つて生産され、歐米諸國には絶無といふ程であります、中でも、本邦は

特に氣候風土竹に好適せる爲、昔より全國到る處に生育繁茂し、美林をなせるものも少くありません、従つて産額多く品質優り三種も七十餘あります。

孟宗竹の如きは、支那江南地方を原産地とするも、今を距る百九十年前、島津家廿一代の祖淨國公、之を琉球より得、今の磯島津邸仙巖別館に植栽せられたのを、我國傳來の始めとし、今日尙ほ邸後の山林に翠緑の竹林を見るのであります。

我鹿兒島縣の竹林の状態を見るに、面積約八千町歩、其主なるものは苦竹、孟宗竹、女竹、布袋竹、大名竹、淡竹にして、其の産額僅に廿五万圓に過ぎない次第であります。

竹林の適地たるの天恵に欲し、而も廣大な面積を有せるに不拘、斯如き僅少の産額に過ぎないのは、蓋し竹林の管理不充分なる過伐、皆伐、亂伐等全く亂暴な經營をして居るからであります、寔に遺憾なことを、云はねばなりません、多少でも本書によつて竹林の増殖が行はれ、又改良が達成されて、産額が増加すること、もなれば、幸甚の至りであります。

● 竹林の改良

良質な竹林を生産することから考へても、亦竹材の生産を殖すと云ふことから考へても、現在の竹林を改良すると云ふことは本縣にとつて實に重大な問題であります。目下の状態では新しく竹林を仕立てる事よりも、現在の竹林を何とか適當に扱つて行くことが急務であります、現に本縣の竹林面積は、八千余町歩と稱せられてありますが、統計上反當の生産額は、僅に三圓貳拾錢に過ぎない、之を先進地に比較するに、非常な懸隔である、少しく手入に意を用ゐるならば、現在の収入を十倍することは、さして困難でないと思ふ。

一、雜草木の除去

竹林内の雜草木は除かねはなりません、尤も林の周圍は風や陽光の直射を防ぐ爲めに、樹木を残す方がよろしい、林内が清淨になれば、今迄拾ひ難かつた籐も、止筈

(育か俄に止つて日を経るに従つて遂に枯れるもの)も容易く採收が出来、手入や竹材の運搬も便に、徒に養分を雑草木に奪はれたり、雑草木の根によつて鞭根の發育の害される心配がなくなり、第一林が廣々と美しく氣持よくなります。然し雑木が非常に多い場合は、一時に伐採すると、却つて竹林の爲めよくありませんから、數年か、つてポツ／＼伐るがよろしい。雑木の中の竹は、素人には立派に見へるけれども、肉が薄く軟らかく、收穫も劣ります、純竹林なれば收穫も増し肉も厚く質も良好となり、漸次丈の高い竹が出来ます。又雑木があると、筍が雑木の枝に支へて直に伸ばない、伐竹の時に竹が木にひつか、つたり、風が吹くと竹と木とすれ合ふて傷がつく様なことになる。

雑草木の除去は芽立ちの弱い夏に行ふが得策であります。

二、不良竹病竹老竹の除去

不良竹や病竹は、幾何澤山あつても、竹材の生産に、何等の効果もない、却つて健全

な竹桿に傳染する虞がある、老竹も筍を出さぬので、林相をくすさぬ様に、漸次伐除くがよろしい。

三、敷草

下拂が済んだならば敷草をせねばならぬ。刈拂つた草や樹木の枝葉を、其儘林地に残して置けば、自然敷草の代りにもなる理であります、尙進んで他から材料を蒐めて敷き込む様にしたものであります、此作業は竹林改良上重要なことであります、偶天然に幾年もの間、立派な林相を維持して来た竹林がないではないがそんなものは多くは上方の森林などから、自然に肥料の補給を受けて来たものであると、斷言して憚らない、こんな特殊の事情のない限り、之から後に述へやうとする、土入や施肥の仕事と相俟つて、是非やつてもらひたいものであります。

(イ) 敷草は十月から翌年二月頃迄、比較的農家の閑なときに行ります。
(ロ) 敷草には堆肥、厩肥、葉が最よろしい、其の他刈草、落葉、蘆芥など何でも安價で

得易いものを選ぶべきです。

- (一) 敷草の量を之を一概に云ふことは困しいが、一反歩三百乃至五百貫位を要します、尤改良の初年には刈拂つた雑草や枝葉を其まま敷き込むこと、すれば、多少其量を減しても差支へはない、
- (二) 敷草は丁寧に擴ぐるには及びません、林内に撒布すればそれで充分です。

四、土 入

- 土入は敷草をした上に、土を盛る作業で、鞭根に蔓延の餘地を供し、土地を膨軟にする作用をなし林況を維持する上から、極めて大切なことであります。
- (イ) 土入を、十一月頃から翌年二月頃まで、敷草後一月を経て施行するが都合よし。
- (ロ) 土の分量を、一坪二荷乃至三荷位が適當でせう、改良の初年には、稍多く入れる方が宜しい、土の厚は約二寸位をよしとする。
- (ハ) 土取場所を、竹林の周圍や林の中の凹所、傾斜地にあつては上方から平坦地では

- 任意の一個を犠牲にして採取する、跡地を水の停滞せぬ様に注意し、深く耕して肥料などを施して、早く成林する様に努める。
- (ニ) 良く改良の出来た立派な竹林にあつては、土入、作業を二年か三年目毎に行ふてもよい。

五、施 肥

竹林には肥料を施すの必要があることは、前述の通であるが、肥料としては大豆粕、骨粉、油粕、人糞尿等何でも宜しい、たゞ、塩氣を帯びたものは避けねばならぬ。液肥(水肥)にしたものは、四月から七月頃迄、即、筍の發生前後に、林地に点々山鍬を以て、穴(一鍬)を穿ち施すかよるしい、又堆肥、厩肥、糞、麥稈、刈草、落葉、蘆芥等の遅効肥料を、秋から冬にかけて施すが宜しい、普通一反歩の施肥量を、大豆粕十五乃至二十貫、人糞尿を三百乃至五百貫位です。

六、改良作業の後始末

改良作業が一段落ついてから、其まゝ放任してはなりません、施肥、敷草、土入等の作業をつゞけて、筍の發生を促すと共に、除草に努めねばならぬ。殊に今迄放任した竹林に施肥をし、雜木を切り除き等すれば、一二年間は随分と草が繁茂しますから年二回位は除草を要します、女一人で優に一反歩の除草をします、又取つた草は其のまゝ林内に散布して置くがよろしい。

七、竹の伐採

竹を伐採する方法の上手下手は、竹林を生かしても殺しもすることゝなる、美しい林相を維持し、生産を多からしめ様と思ふならば、細心の注意を拂はねばなりません。

(イ)伐採齡、苦竹と淡竹は滿三年生迄を殘し、滿四年生以上を伐採する、孟宗竹ならば滯四年生迄をし、それ以上の古竹を伐採することにせねばならぬ。つまり苦竹、

淡竹 三年竹、孟宗竹では三四五年竹が一番筍を澤山に發生するので、其を伐採することは不得策です、且老若ともに質に於て、又保存の点に就ても劣る理で値段も落ちることゝなる。

伐採齡を定める爲に、竹幹には發生の年齡を記して置くことゝしたい、それには簿の落ち終つた七八月頃、翌で一定の向に發生の年號を記して置きます、例大正十三年に發生したものであれば、「十三」或は單に「三」又は「子」と記す、斯様にしておけば伐採のとき、伐竹選定の面倒が省け、又年齡を誤る様な悞もありません。伐採すべき竹が局部にかたまつて、それを伐ると大きな空隙が出来る様な場合には、適當な伐期のものも殘して置くのを得策とする。

(ロ)伐採の季節は、十月中頃から十一月頃か一番宜しい、特別に有利な買手がついたとか、急な入用に迫つたとか、或は開花の爲め己むを得ぬ場合の外、其時期をはずさぬがよい、切り株は成可く低く株にも鈍目を入れて、早く腐らす様にせねばならぬ

(ハ)伐採後の取扱。

伐採後鎌又は鉋で、皮を傷つけない様に枝を拂ひ、結束して日光の透射の少ない處に、横木を置いて積み重ねて置く、日光の當る場合にも藁菰の類を以て覆をして置けば、二三箇月の貯蔵には堪へる、其中適當な商人を目つけて、販賣するがよろしい。

(ニ)結束。地方の慣行によつて區々であるが、成可く次の様に一定したいものである。

苦竹一肩 (一束)の數量

胸高周圍	一肩の本數	備考
一尺二寸	一本	寸末滿ハ五拾六入、胸高周圍地上四尺三寸ノ周圍
一尺一寸	一本二分五厘	全
一尺	一本半	全
九寸	二本	全
八寸	三本	全
七寸	四本	全
六寸	六本	全

五寸	十本	全
四寸	十六本	全
三寸	三十本	全

孟宗竹は普通一本を單位にして賣買して居る。結束が區々であることは、取引相場を知る上にも不便が多く、従つて賣買上にもつまらぬ、面倒が生ずる、是非一定してほしいものである。

八 病虫害其の他の危害の防除

竹林に對する諸種の危害に就ては、あまり注意が拂はれて居らぬので、随分と荒廢に歸した山が多いのは、寔に遺憾である、危険の主なものゝを擧げて見やう。

(イ)花自然枯。

之を開花結實して、竹幹と根の大部分が枯れるのであります、開花の前徴を認めたらば、速に皆伐をし敷草や肥料を施して、之が恢復を圖らねばならぬ。

竹の開花は、生理的の現象であることされて、絶対に防止することは出来ない、たゞ日頃の取扱と被害後の手人によつて、恢復を早めねばならぬ、

(ロ) 蔓自然枯病 (ジネ)

之は竹の天狗巢病とも雀の巢と云ひ、竹枝から多数の蔓状の枝がぶら下つて、打すて、置けば自然に竹が枯れる、今や全国に蔓延し其の被害が激甚であります、之が豫防と驅除に付ては次の様にせねばならぬ。

- (一) 一本病に罹り易い老竹焼竹(シヨナシ)は之を除くこと。
 - (二) 生竹を撓めて造る所謂万年垣を設けぬこと。
 - (三) 竹林の培養に日頃から意を用ゐる竹を強壯にして抵抗力を養ふこと。
 - (四) 被害竹は速に伐除くこととし、跡地の更新を圖るがよい、手のとゞく程の低い枝をどりのそくこととする、病枝は全部焼き捨てねばならぬ。
- (ハ) 水枯病 (葉枯病。水入病。醬油樽病)。
 之は二三年生の苦竹を、主として浸す病菌で、之にかゝると、三月頃に梢頭が枯色

を帯ひ、四五月頃には卒葉が枯れて、自然に脱落してしまふ、又竹幹も上部より漸次縁色を失ふて、竹筒の中に清浄な水を堪える、幹は暗紫色を呈する様になる。

(ニ) 朱病 (墨入病節自然枯竹 蔴病)

十一月頃に、竹幹の地上に近い節の下に、特種の菌類が寄生して、朱色の柔かな塊が漸々にふえて、翌年の四五月から、朱色が褪めて黄白色になり、水の有無によつて、乾いたり膨らんだりし、何時とはなしに脱落する。

被害の初期に鎌の背竹筥等で削り落し、ボルドー液昇汞水を塗沫する、病害の進んだものは伐除く。

(ホ) 其他竹林に對する危害として注意すべきは次の様なことである。

(一) 筍夜盗蟲 (はじまくちば)

筍の發生時期に筍の頂の巻葉の間、又は側方に喰入つて、筍の生育を害し所謂どまい筍の原因をなすものである、幼虫の捕殺に努め又止筍も早く之を食用に供

するがよい。

(二) 盜筍の發生時期に、人が林内に入り込んで、筍を盗むことがある、之は必しも故意でなくとも、目につけばえてあり勝ちなことである、宜しく垣根を周らして、人の侵入を防ぎ、筍の發生時期には林地の巡視を怠つてはならぬ。

● 竹林の仕立法 (新植篇)

竹林を仕立てるには、種々な方法があるけれども、最も安全で有利なのは、母竹植付法、鞭根誘引法であります、之には夫々得失がありますが、其場合に應じて適當な方法を選ばねばなりません、先母竹の植付法から述べることにします。

母竹植付法

一、土地の選定

先づ土地を選ばねばならぬ。

土地は砂礫交りの肥沃な壤土からなつて、風當りの少ない、排水の良好な、運搬に便利な所を選ぶべきであります、概して地味の点から云ふならば、杉のよく成育する所は竹にも適して居ります。

二、地拵

植付し先立つて、地拵をせねばなりません。

竹の繁殖のは、鞭根の發育に依るものでありますから、土壤が固つて居ると植付ても成林が非常に遅れます。成可く、全部を開墾に依つて地拵をするがよろしい。そうすれば土壤が膨軟になつて、成林期が早く良材の産出も多くなる。止を得ず之が出来ぬときは、植付の部分だけを耕して、鞭根の伸びるに従つて全林を耕するも一方法であります。

三、母竹の選定

母竹は云は、種竹である、立派なものを選ばねば禍を殘すこととなるのは、云ふまでもありません。

母竹としては、どうしても、次の様な点を備へて居らねばなりません。

(イ) 無病で健全なもの。姥竹とか根曲とか悪性質のものは透けねはならぬ。要するに竹幹が圓直で、節が低く、幹面が平滑で縦條の少いものは、良性質のものと見做すことが出来ます。

(ロ) 成可く一年生以下のもの。三年以下なれば差しつかへありません。

(ハ) 必ず健全な鞭根を有し鞭芽の存するもの。

なほ慾を云へば竹幹の太さは、苦竹なら三四寸、孟宗竹なれば五六寸のものがよろしい。枝を成可く低く、鞭根の浅いものが取扱うも便である。

四、母竹の堀取

母竹は、普通根株の兩側に、鞭根を撞木狀につけて堀り取る、鞭根は成るべく長い方がよろしいが、苦竹淡竹では各側一尺位、孟宗では二尺位とする、堀取るときは鞭芽をいためない様に氣をつけねばなりません。堀取は中々勞力のかゝる仕事であるから、出来る丈け堀取易い竹林を選ばねばならぬが、夫には所謂走り先(竹林の

周圍へ蔓延せる所)繁殖後日の浅い竹林、疎生せる竹林、皆伐跡地の新林等が適當であります。

五、母竹の植付季節

春植なれば三月中、秋植なれば十月か十一月中を以て、好季節とするが暖地では寧ろ秋植を奨めたい。

六、母竹の植付

母竹の植付は、可成曇天無風の日を選んで、根の乾燥しない様に、迅速に丁寧に植栽することが肝要であります。先堀取つた母竹は、風力を避ける爲に、枝四五段を殘して梢を切る(梢止め)次に鋭利な刃物で鞭根の切口を平滑にし、乾かぬ様に根を菰等に包んで植付地に搬ぶ、植穴は株の大きさに應じて、適當な大きさの穴を穿ち、之に鞭根を水平にすえて、根株の周圍に芥の混らぬ細土を埋め、もとの深さ迄土を被ぶせる、之を充分におしつけ水を灌ぎ、藁柴草等を撒布して、乾燥するのを防ぎ且風の爲に動搖して根の緩まぬ様に、三方から支柱を建てます。降らすとも竹植ゆ

る日は衰と笠と云ふ句もあるが、特別な乾燥地でない限り、雨天は禁物であります。植付の本数は、母竹の大きき經費の關係上、一樣に云ふ事は出来ないけれども、苦竹なれば普通一反歩七八十本位、孟宗竹なれば三四十本位が適當であらう。

七、植付けてから成林する迄の注意

植付後二三箇年間は、株間に間作、(里芋、陸稻、蕨、蕎麥、大豆、蠶豆などよからう)しててもよろしい、除草の手数がはぶけ、且多少の収入もあげ得やう、植付後土地があまり乾く様であれば、根元に灌水し又時々稀薄な水肥も施さねばならぬ。雜草は、植付後三四年間は年に二三回、其後を少くも年に一回、之を除かねばならぬ。殊に灌木類は根絶に努むべきです、支柱も時々結び目をあらため結かへを要します、施肥を年々其量を増し、敷草土入は隔年に林地の全面に對して行はねはなりません。

植付後に發生する筍の仕未ですが、之等を伸長して枝葉を展かうとする頃に、下枝四五段を残して、摘心するがよろしい。そして植付後周圍が二三寸になつて、小柄竹や棚竹等になる様になつたらやめるがよろしい。

植付けてから二三年を経て、筍の出ぬものは最早繁殖の見込がないものと思はねばならぬ。

八、成林期

秋植は其翌年、春植は其年に大抵筍が出る、其の筍の高さが一間か一間半位しか延びぬ、次の年には母竹一本から五本内外生へる、秋植では四年目春植では三年目の發筍後には、稍竹林の形になるのが普通である、年を重ねるに随つて竹幹も太り鞭根も蔓延して、七八年目から収入も可なり増し、十年目頃には立派になります。

● 孟宗畑の仕立法

孟宗畑とは、筍の採收を主眼として特別な栽培法によつたものを云ふのであります。孟宗竹を筍が太く味もよく、其の出る時期が早いので、大に賞用されて居るのであるが、竹材は苦竹や淡竹にくらべて、一段劣つて居るので、交通の便な所であるならば

孟宗畑の經營が却つて有利であらうと思ひます。

殊に本縣は氣候の溫暖な点に於て、竹林栽培上確に天恵に浴して居るので、少く意を用ゐるならば「見堀筍」の如き、優に他縣に比して一箇月乃至半ヶ月早く市場（主として阪神地方）に持ちだし得ると信じます

我邦で孟宗畑栽培法の進歩して居る地方は、東京の目黒と京都附近一帯の竹林であるが、茲には京都地方の方法を紹介することとしやう。

一、土地の選定

孟宗畑は竹材林に比して、周到な手入れを必要とするので、土地は排水の良い平坦地か傾斜十五度以内の緩斜地でなければならぬ、向は南又は東に面して居る所がよい、土性は膨軟肥沃で土層の深い粘質の壤土をよしとする、京都地方では赤色を帯びた所が、筍の生育も非常によく收穫も多い、然し筍の性質から云へば白色の粘質壤土が特に良いとして居る、而して可成肥料の運搬並筍の搬出に、便利な所でなければならぬ

二 仕立法

(イ) 地拵 苦竹植栽の地拵より尙一層注意して町寧に開墾し深さ二尺内外に耕す必要がある

(ロ) 母竹の選定 は竹材林の場合と全様であるが、鞭根の長さを、二三尺つけて堀取がよろしい。

(ハ) 植付 秋期十月か十一月の候に植付ける、下枝三四段を残して其梢端を切斷し、一反歩に五十本内外を植付けるがよろしい。

(ニ) 植付後の手入れ 孟宗畑の植付本数は、前述の様に少ないので、二三年間は是非間作をしてほしい、秋植であると其翌年には筍が出る、其は其まゝにして置く、三年目に生じたものは、太い一本を残し親竹とする、下枝の二段出た頃に五六段を残して梢切りをやる、四年目には優良な筍を一反歩に四十本位親竹として残り、五年目六年目には、配置を見て反當五十本を残し、前と全様に梢切りをやる枝の数は十二段位

とする。六年目には初に植込んだ、母竹や細小な竹を親竹の配置に注意して伐採し一反歩の親竹数を百五十本内外にするのが適當である、爾後毎年二十五本内外の石竹を伐採すると共に、一方廿五本内外の筍を親竹として残すこととする、尤も残存本数は土地の瘦肥によつて加減せねばならぬ、親竹として残すのは、出盛よりも少し前に出た筍がよいとしてゐる。

親竹は心留(梢切り)をする、之は畑地に光線を射入させるのと、風の動搖を避ける爲である、光線が入つて土地に温熱を與へることは、筍を早く發生させる上に必要なことである。心留は筍が伸びて下枝の二三段展いた時、竹竿の先端に鋭利な鎌を結びつけて、十二段内外の枝を残す様に切ればよろしい。植付後は時々施肥を怠てはならぬ、人糞尿又は油粕の腐熟したものを水にどかして春夏にかけて數回にはごこせばよろしい、尙年に二三回の除草も必要である。

三、成林後の培養

立竹數が少ない爲に、雜草の繁生がはげしいから、少くとも春から夏にかけて、二三回除草することが大切である、全時に肥料も充分に施さねばならぬ、肥料は第一回を採筍後直に施すがよい、筍を採つた穴や別に小さな穴をあけて施用する、一年間に二三回に分施するがよい。九月から十一月にかけて敷草をやる、量は一反歩五六百貫を施用せねばならぬ、十二月頃には土入をやる、一反歩七八百荷を要する。要するに苦竹等に比べて、一層利益な仕事となる理である。

四、筍の採收

植付後四年目頃から筍がとれ、大体。六七年目頃から四五百貫の收穫がある而して十月頃から十二月にかけて、小さな筍が發生する、之が割合に高價にうれる一番多く用ゐるのは春先二月から五月迄である。京都地方では、此「走り」の筍をとる爲に、九月頃林地を清淨にして、敷草をなし、十一月頃一方から敷草を掻き除き、龜裂の有無を

檢べて筍を探る、之を「見堀筍」と云ふて一貫十五圓内外に賣れる、本縣は京都に比すれば、遙に天恵に富んで居る理であるから、少しく工夫をこらせば、半月や一月位早く「走り」を出すことは左程困難であるまいと思ふ。本縣の普通の孟宗竹林に於て十二月迄の「走り筍」反當十斤位採收された例もあるから、畑として培養したならば十二月迄の間に十貫の收穫は優に得られることと思ふ、之を阪神地方に送りだしたものととして、一貫五圓の純收入をあげ得たものとすれば、十貫として五〇圓となり、一箇年の培養の費用を畧つぐなうこととなる理であるから出盛ときの筍の收入は、畧純益と見てさしつかへない、一貫二五錢としても反當四〇〇貫として壹〇〇圓の純益があることとなる理であるたしかに有利な仕事である。

筍の堀取りは、本縣では撞木狀に柄のついた鉄棒を以て、林地をつつつき廻して、筍の所在を尋ねるらしいが、之は屢筍に傷をつけて品質を落す、畑として栽培するときは、京都附近に於ける堀取釣が便である。採取の方法は日中畑に行き、平滑にした表土を視ると、筍の地下に發生せる箇所は、小さな龜裂を生じ、露をおひ居るか

ら、之に目標をして笹葉を立て、適當のときに一方より順次堀取釣にて掘りとり、其の方法は表土を少許り去り、竹の乳飲葉の傾ける方に體を置き、堀取釣を逆に持ち土中に挿し入れて、地下の鞭根と筍の附き工合を探り、附着部の判然せしとき、筍の根元に力を加へ切斷する。之には相當の熟練を要する次第である。

以上は孟宗畑を新に仕立てるものとして話をすゝめたのであるが、本縣の實情より推すと、寧現在の孟宗竹林を畑に引きなほすことが得策である。

孟宗竹林を畑に引きなほすには、先立竹敷を整理して、反當一五〇本内外とし、全時に枝を十二段位残して梢切をなし、光線を林地に導かねばならぬ。施肥、敷草、土入等につきては既述の方法に準じて行へばよろしい。孟宗竹林を畑に引きなほすが得策なりや否やを定めるのは、土地の便否、方向、地味等を吟味した上よく考へて定めねばならぬ、仕事を始めたならば途中で挫折せず充分の收益をあげる迄繼續しなればならぬ。孟宗畑の仕事は、割に多くの勞力を要する次第であるから、其点も注意して考へねばならぬ。

● 竹林の副産物

一、筍。止筍、焼筍、其他立林の配置上から立てる必要のないものは堀取つて利用すべきです。

(イ) 止筍。之は生育か急に止つてしまつて、終には腐敗してしまふものを云ひます。之は主として養分の不足、害虫の寄生、天候の激變等か原因になつて出来るものであります。早く鑑別して利用せねばならぬ。之が鑑別法は

(一) 筍の尖端の巻葉を少しく狭み切つて、程經て開き方が鈍いか又は全く開いて居らぬものは止り筍となる。

(二) 巻葉の尖端に朝夕露の玉を結ぶものは、健全なるも然らざるものは大抵止り筍です。

(三) 筍の側方から虫糞のこぼれて居るもの。皮の光澤の悪いもの、又は皮の巻き方の軟いものは大抵止り筍である。

(四) 筍の五六寸伸びた頃。麥稈。細枝等を立て、筍の高さと全しにして。數日たつて筍の高さをくらべて、伸のないもの又少いものは大抵止り筍である。

(ロ) 焼筍。之は焼筍になるもので。將來竹材として見込のないものである、斯様なものは、筍のときに色が淡く、稍褐色を帯び、光澤がないから、注意すれば容易に判別する。

二、竹籜。籜は、竹林一駄(四束)から荒籜(竹幹を包めるもの)か一貫目内外。枝籜(枝を包むもの)か百五十匁内外とれるもので普通一反の收量は十貫内外です。籜は雨にあてるとよろしくない。そして拾收後は充分日光で乾かして。結束せねばならぬ

三、竹枝。箒、袖垣其他の細工物に用ゐられ、孟宗竹の梢は淺草海苔の簀竹として多くの需要があります、竹枝を暫く林内に放置して葉の落下した頃林外に持ち出すがよい。

● 竹林作業年中行事

二八

◎ 一月

- ▲ 竹の伐採は前年の秋から引續き此月もよろしい
- ▲ 前年から引續いて土入をなさい
- ▲ 塵埃や厩肥など遅効肥料を施しなさい
- ▲ 孟宗の「ハシリコ」を市場へ出しなさい

◎ 二月

- ▲ 筍が出ます破損した垣は修繕しなさい
- ▲ 土入は今月中には終らねばならない
- ▲ 孟宗の「ハシリコ」は此月も市場に出しなさい
- ▲ 蔓自然枯其他の病竹の驅除をなさい
- ▲ 春植地の地拵をなし器具肥料の準備をなさい

◎ 三月

- ▲ 苦竹孟宗竹などの春植は此月中になさい
- ▲ 孟宗の筍が出始める。採收の準備をなさい

◎ 四月

- ▲ 孟宗筍の出盛りです。採收を怠るな
- ▲ 筍の盗人用心
- ▲ 筍を掘つた穴に施肥をなさい
- ▲ 孟宗畑では本月中筍に發生した生育のよい筍を母竹として反當二十本内外を適宜の配置に残しなさい

◎ 五月

- ▲ 孟宗畑では母竹として残したものの裏ごめをなさい
- ▲ 孟宗の傷み子（筍堀取の爲傷いた鞭根から出る小さなものは）伐り除け
- ▲ 苦竹や淡竹は此月から生へるから仕立方に氣をつけよ

二九

▲ 筍の盗人用心

▲ 新植 竹の初筍は下枝を四五段残して心を摘め

▲ 新植竹の根元に施肥せよ

◎ 六月

▲ 苦竹や淡竹の筍の出盛りです、盗難と虫害に用心をなさい

▲ 籐の採收をなさい

▲ 止 筍は早く見分けて利用しなさい

▲ 除草と施肥を始めなさい

◎ 七月

▲ 前月に引き続き除草を怠るな

▲ 新竹に發生年號を記しなさい

▲ 下肥其他の速効肥料は除草后すぐ淺穴を掘つて施しなさい

◎ 八月

▲ 前月より引き続き除草施肥をなさい

▲ 林内の雜木は此月に伐り除きなさい

◎ 九月

▲ 引續き除草と施肥を怠るな

▲ 秋植の母竹や肥料等を準備しなさい

▲ 新植地の地拵をなさい

▲ 雜草塵芥厩肥等の遲効肥料は此月から何時施してもよろしい

◎ 十月

▲ 竹の伐採の好時期です

▲ 竹の新植をなさい

▲ 敷草を始めなさい

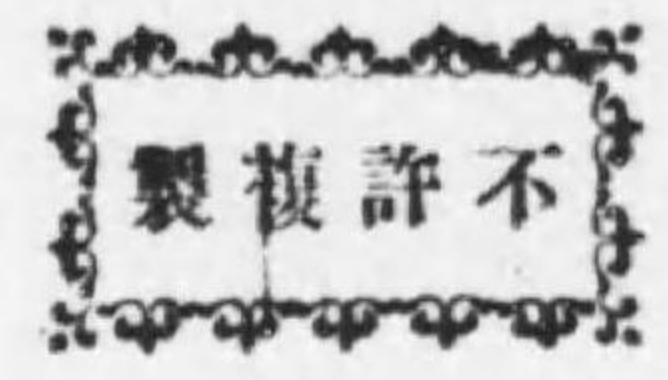
◎ 十一月

- ▲ 竹の伐採は此月もよろしい
- ▲ 前月より引續き竹の植付をなさい
- ▲ 土入を始めなさい、敷草も引續いて行ひなさい

◎ 十二月

- ▲ 蔓自然枯其他の病竹の防除に氣をつけなさい
- ▲ 敷草土入は前月に引續き行つてよろしい
- ▲ 竹の伐採は此月もよろしい
- ▲ 孟宗の「ハシリコ」を正月用として市場に出しなさい

大正十三年七月五日印刷
大正十三年七月十日發行



鹿兒島縣廳内

財團 鹿兒島縣社會事業協會代表者

著作兼 發行者 神崎政徳

鹿兒島縣日置郡伊集院町總重一三
印刷者 吉田丈作

右全所 印刷所 吉田活版所

電話 二三八八番
電報掛號 一三八〇三番

發行所 鹿兒島縣廳内 財團 鹿兒島縣社會事業協會

終